

野川自然の会 水モニタリング結果報告(自然再生地区の第一調節池の水調査)

日付	時刻	野川 取水口入り口			野川 小金井新橋下				野川 二枚橋下			ため池			北側水路水源			湿地出口			深池出口				観測井戸	どじょう池出口			気温 ℃
		水温	pH	COD	水温	pH	COD	水位 ※1	水温	pH	COD	水温	pH	COD	水温	pH	COD	水温	pH	COD	水温	pH	COD	水位 ※2	水位 ※3	水温	pH	COD	天気
		℃	pH	mg/L	℃	pH	mg/L	cm	℃	pH	mg/L	℃	pH	mg/L	℃	pH	mg/L	℃	pH	mg/L	℃	pH	mg/L	cm	cm	℃	pH	mg/L	
2024年 4/13(土) <注1>	13:30 ~ 15:00	22.3	7.7	6	22.6	7.7	5	18	23.0	7.2	5	19.9	7.7	6	15.7	7.1	3	21.8	7.9	5	20.6	7.6	5	105	-68	20.0	7.4	5	23.2 晴れ

※1.野川小金井新橋下の水位は、東京都水防災総合情報システムサイトの野川池上観測地点の水位。
 ※2.深池出口の水位(水面の高さ)は、数値標の零点(池底の基準面)との高低差(プラス表示)を取る。 ※3.観測井戸水位(水面高さ)は、地面基準杭上面との高低差の記録(マイナス表示になる)

<注1> 参加者2名。多摩地区は高気圧に覆われて、府中観測所の気温データによると、最高気温は平年の同時期より3~4℃高めに推移している。野川本流は下流への流出が、先月より増加傾向が見られるが、まだ少ない状況である。ため池・北側水路水源・田んぼ(第一、第二)・どじょう池・湿地・深池のいずれの観測点でも、流れ込みが少ない状態が続いている。

日付※	時刻	野川取水口入口				湿地出口				どじょう池出口			
		NO3-N	NO2-N	NH4-N	PO4-P	NO3-N	NO2-N	NH4-N	PO4-P	NO3-N	NO2-N	NH4-N	PO4-P
		mg/L	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L

※生態系の環境変化が顕著になるおおむね5月から10月の間に3回計測予定

pH(ピーエッチ)：

水の中に溶け込んでいる水素イオンの濃度を示す数値。0～14までで表される。7が中性、7より小さい場合は酸性、7より高い場合はアルカリ性。水道水の基準値は5.8以上8.6以下。5.6以下は酸性雨。

COD(化学的酸素消費量)：

河川水中には汚れのもとになる有機物が多く含まれている。CODは水中の有機物の酸化分解に必要な酸素量を表す。COD数値が大きいほど水中に有機物が多くあることを示す。雨水、河川の上流水0～2mg/L。河川の下流水2～10mg/L。

NO3-N(硝酸態窒素)：

肥料、家畜のふん尿や生活排水に含まれるアンモニウムが酸化されたもので、富栄養化の原因となる。雨水0.2～0.4mg/L、河川の上流水0.2～1.0 mg/L、河川の下流水2～6mg/L。

NO2-N(亜硝酸態窒素)：

水中の亜硝酸態窒素は主に各種工場排水、肥料、し尿、下水などの混入によるアンモニア性窒素の酸化過程で生ずるものであるから、水の汚染を推定する重要な指標となる。河川の上流水0～0.03 mg/L。

NH4-N(アンモニア態窒素)：

水中に存在するアンモニア態窒素の多くは、下水、尿尿、工場排水などに由来する蛋白質や有機窒素化合物が腐敗、分解する過程で発生する。河川の上流水0.05mg/L以下、雨水0.1～0.4mg/L、河川の下流水0.5～5.0mg/L

PO4-P(リン酸態リン)：

リン酸は防腐の効果があり食品添加物として加工食品に多用されている。かつては家庭用合成洗剤の界面活性剤にリン酸が含まれていて多量に河川に流入していたが、現在は、ほとんど無リン洗剤になっている。水中のリン酸は自然的には生物体の死骸や排泄物の分解により供給されるが、人為的な生活排水や化学肥料などに多く含まれ、窒素と共に水界の富栄養化の原因となる。リン分の濃度の評価目安は雨水、河川の上流水0.016mg/L以下、河川の下流水0.032～0.326mg/L。

(河川に含まれる測定項目の測定値を水の汚れの評価目安にする。「バックテストで環境しらべ」岡内完治/合同出版より)